

<b>Title</b>	感謝の言葉 : 序に代えて
<b>Author(s)</b>	大木, 英夫
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所紀要, No.4, 1994.2 : 3-4
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=2988">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=2988</a>
<b>Rights</b>	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

感謝の言葉——序に代えて

ラインホルド・ニーバー生誕百周年の記念行事を、本特集がその一端を現しておりますようにかくも盛大に行うことができましたことは、ニーバーの教えを受けた者のひとりとして、またこの企ての責任者のひとりとして、まことに大きな喜びであります。これは、ニューヨークのユニオン神学大学で行われたもの、カナダのマギール大学で行われたのに比して、遜色のないものでありました。一九九三年九月ニューヨークで、昔ニーバーのもとで共に学んだフェーレ牧師夫妻と会い、この会の模様を伝え、そしてパンフレットやわたしの講演（リード教授が英訳して下さった）を差し上げたところ、それらをニーバー夫人に届けて下さり、お喜びのお便りをいただきました。またご長男のクリストファー・ニーバーからお便りをいただきました。

その後でヨーロッパに向かいオックスフォードを訪れましたが、そこでアングリカン（英国国教会）の指導的聖職者の中にかなりニーバーリアンがいるとのことを、マンズフィールド・コレジのブロック教授から聞かされました。それは Richard Harries (ed.), *Reinhold Niebuhr and the Issues of Our Time*, London: Mowbray, 1986 にあらわれているとのことでした。編集者ハリスは伝統あるオックスフォード司教とのことでした。このことを知ったのもニーバー

百周年の喜ばしい思い出であります。

この記念行事に講師としてご講演下さった方々、記念パーティにご出席下さった方々、その他出版計画に参加された方々（武田清子先生の『光の子と闇の子』、高橋義文教授の『ラインホルド・ニーバーの歴史神学』など）、また企画と運営のため背後でご苦勞なされた方々に、心から感謝申し上げます。

感謝の言葉をもって、本特集の序に代えさせていただきます。

一九九四年二月一〇日

聖学院大学総合研究所所長 大木英夫